



2019年度秋学期

授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施報告

授業改善のための「学生による授業評価」の目的は、授業に対する学生の率直な意見を聞き、学生と教員が協力して「わかりやすく質の高い授業」を作りあげ、教育改革(カリキュラム改革)等を進めていくことにあります。さらに、学生の学修活動に対する自覚と向上を促し、担当教員においては学生の授業への取り組みの結果を受けて、より良い授業とするための検討材料を提供することを目指しています。

2019年度は、「教育力向上プロジェクト」の一環として教育情報のオープン化を進めるため、所見に試験講評や成績分布などの項目を取り入れるよう授業担当者へ依頼しています。その結果、10ポイント以上の所見提出率向上が見られました。

実施状況

実施期間 : 12月2日(月)~12月14日(土)
 実施率 : 実施対象科目 754科目中 714科目実施
 (実施率94.7%)
 回答率 : 44.8% (回答者数/対象科目履修者数)
 所見提出率 : 77.3% (2018年度秋学期 64.5%)

●集計結果の公開

科目毎の授業評価をクロス集計した結果を、本学ホームページで公開しています。

(詳細集計は学内からのみアクセス可能)

アンケート結果公開URL: <http://www.andrew.ac.jp/info/fd/questionnaire.html>

集計結果は「学生による授業評価報告」としてホームページ上に掲載するとともに冊子体にまとめ、図書館等に備え学生が自由に閲覧できるようにしています。

2019年度全学FD研修会

2019年度は2回研修会を開催いたしました。

第1回 ルーブリックを軸とした授業の運営と改善

第2回 M-Portを利用した学習支援(応用編)

* 情報センター共催

日時: 2019年11月18日(月)16時~17時
 講師: 共通教育機構講師(学習支援センター)
 榎井亜依 講師
 向村九音 講師

ライティング科目「大学レポート入門」を例に、ルーブリックを軸とした授業運営、ルーブリックを活用した学習成果の可視化や教材の開発、科目運営の見直しについて考えました。

「大学レポート入門」を担当する講師の授業改善の実例をもとにした発表を受け、参加者からは、ルーブリックを授業運営の改善にまで利用できることに驚きの声があがりました。ルーブリックを取り入れたい、一度作成してみたいという意見があがる一方で、他の授業への応用の難しさを心配する声もあり、事例の共有や連携の必要性が再認識されました。

日時: 2019年12月11日(水)15時30分~17時

秋学期より導入された新M-Port(大学ポータルシステム)の機能のひとつである「学習支援機能」を紹介しました。ポータルシステムを開発している日本システム技術株式会社から講師をお迎えし、授業支援に活用できるよう実際に授業で学習支援機能を利用することを想定しながら、ハンズオン形式で実施しました。

●学習支援機能とは

学生のグループ内でのディスカッションや課題出題・提出、フィードバック、クリッカーとしての利用ができる「プロジェクト管理機能」や、履修学生に対して学習教材や課題、テストなどをアップロードでき、学生自身が学習することができる「コース管理機能」等がある。

2019年度授業見学「共通教養特別講義 日韓対照言語学」

1. 基本事項

担当教員:新保 朝子

受講者数:174名

実施日:2019年11月11日(月)

到達目標:(1) 言語学とはどういう学問なのか、その枠組みを理解する。

(2) 表面的に異なるいろいろな言語にどのような共通の仕組みをあるかを考える。

(3) 日本語と韓国語を対象に、二つの言語の言語学的な共通点や相違点を見つけ出す。

2. 見学時の授業の流れ

全体説明→3つのポイントを説明→最後に3つのポイントについてミニレポートを作成

3. 授業の工夫や受講生の様子

- ・授業内容と流れがよく分かるプリント(A3の表裏1枚もの)と映像、パワーポイントがうまく組み合わせられている。
- ・受講生の理解度を見ながら学生へ問いかけ、学生へマイクを回して回答させることで、学生が意欲的に取り組む環境を作っている。授業中は静かで集中できる。

4. 講義のポイント

- ・配布されるプリント、映し出されるパワポ画面&映像が周到に準備されており、適切な教材で順序立てて内容が進められ、多数の学生を目的地まで連れていく流れができており、声もきわめて聞きやすい。
- ・3人の留学生と全体の1/3の韓国語既修者へ授業中マイク1本を回すことで活用している。
- ・プリントがドリル式(くり返すことで定着)になっている。
- ・言語の表現方法が理解しやすいような映像を用いている。
- ・途中3分ほど休憩を入れることで、学生の集中力維持につとめている。
- ・要点が詳しく説明されており、最後に課せられるミニレポートへつなげられている。

5. 授業を見学しての感想

- ・プリント、パワーポイント、映像がうまく組み合わせられており、実によく工夫されていて感心した。
- ・大人数の授業にもかかわらず、全体を上手くコントロールされている様子が印象的だった。
- ・学生を積極的に授業へ参加させようとする意欲が感じられた。
- ・言葉が聞きとりやすく楽しく授業を受けられた。

- 今回の授業見学は全学FD推進委員のほか、学習支援センターのピアサポーターであるMAPS学生2名も参加しました。

2019年度SA・TA制度導入科目

- [SA] 公共経済論Ⅰ<春>、公共経済論Ⅱ<春>、入門演習<春>(西崎 勝彦・経済学部)
経済学特講ーモチベーションアップ講座<秋>(辻 洋一郎・経済学部)
労働経済論Ⅱ<秋>(吉田 恵子・経済学部)
社会学科基礎演習<春>(木島 由晶・社会学部)
社会福祉学基礎演習<通期>(齋藤 かおる・社会学部)
社会福祉フィールドワーク<通期>(竹内 靖子・社会学部)
演習3<通期>(信夫 千佳子・経営学部)
基礎演習<通期>(江藤 隆之、田中 志津子・法学部)
教育課程論03<秋>(木村 重房・共通教育機構)
- [TA] 経済学01<通期>(木村 佳弘・経済学部)
異文化間コミュニケーション論A02<秋>(金本 伊津子・経営学部)

2019年度全学FD推進委員会メンバー紹介

【委員長】宮本 孝二(副学長)

【委員】田代昌孝(経済学部)、南友二郎(社会学部)、室屋有宏(経営学部)、尾鍋智子(国際教養学部)、花元 彩(法学部・春)、早川のぞみ(法学部・秋)、梅谷進康(共通教育機構選出、社会学部)、西川孝仁(教務課長)

【事務局】延康之(学長室課長)、平井沙恵(学長室)、竹川佳佑(学長室)

発行日 2020年3月31日

発行 桃山学院大学 全学FD推進委員会 事務局
〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

電話:0725(54)3131

FAX:0725(54)3203

電子メール: zfd-momo@andrew.ac.jp